



翠巒
Mini Press
第171号
2021/4/8

編集・発行
高崎高校新聞部



倍率
1.19倍

3月17日に後期選抜の合格発表が行われた。事前に合格者をネット上で公表してからのものだったため、安堵した表情で次々と新1年生が校門をくぐった。張り出されていた番号を前に記念撮影や握手をして、喜びを分かち合う姿が多く見受けられた。

新1年生に質問したところ、文武両道を実現したいと答えた生徒が多かった。これは彼らの新しい生活への意気込みの表れだ。新1年生たちには、高高での生活が中学時代とは全く異なる環境と感ずるだろう。しかし、それを楽しむことが出来れば充実した3年間になることは間違いない。辛い時は過酷な受験期を勝ち抜いてきたことを自信にして頑張ってもらいたい。

(鈴木)

「文武両道を実現したい」 後期選抜合格発表



新しい生活への期待をこめて高高の校舎を望む新1年生たち

竹上知寿くん (玉村南)

高高生の兄の影響で、中学1年生の時から目指していた。挫折があったものの、合格できてうれしい。勉強を頑張っていて、国公立大学経済学部を目指したい。勉強の計画を綿密に立ててくれた父親に感謝したい。山の中にいるのが好きなので、山岳部に入ろうと思う。

茂原佑陽くん (甘楽)

1年間必死に頑張ってきたので、結果が出てほっとしている。群馬大学共同教育学部を目指したい。サッカー部に入ろうと思っていて、前橋高校との定期戦では3連勝したい。

石原圭祐くん (並模)

順当に受かることができている。ソフトテニス部に入る。勉強を頑張りがら、テニスでインターハイを目指して、文武両道を実現したい。塾への送り迎えをしてくれたら、辛いときに寄り添ってくれたらいい。両親に感謝を伝えたい。

関優多朗くん (藤岡北)

求む！新聞部員！

高高には高いレベルでの文武両道を実現している生徒が多い。新入生の中にも学業に勤しみつつ、部活動や実行委員会に参加したいと考えている生徒が多いのではないかと。そんな新入生に新聞部という選択肢を示したい。

高新聞部はその名の通り新聞の製作、発行をする部活である。取り扱う内容の選定や記事の執筆、新聞に使う写真の撮影、編集作業に至るまで基本すべての工程を部員で行なっている。昨年の群馬県新聞コンクールでは県2位に当たる県議会議長賞を獲得するなどの実績もある。

現在は3年生9人、2年生5人で活動しており実行委員会や他の部活動との兼部が可能だ。実際に多くの部員が実行委員などと兼部している。

運動部と比べて活動時間は短い。勉強などに使える時間も比較的長く、部員は部活動と学業の両立を実現している。前年度の新聞部OBには東北大学や北海道大学といった旧帝大の合格者がいる。また、文型の部員が多いような印象を持つ人もいるかもしれないが、部員の半数は理型であり、中にはSSHクラスに在籍している人もいます。

新聞部に入部すると、月に一度は記事を書くことになる。現在大学入試において重要視されている記述力を部活動を通じて鍛えることができるのは大きな魅力であると言える。

興味を持った生徒は是非、理科棟1階新聞部室に足を運んでみてほしい。

(小池)

田辺日々輝くん (藤岡東)

まさか自分が合格するとは思っていなかった。部活はまだまだ決まっていなかった。陸上を戦が楽しみたい。自分に合う参考書や教材を渡してくれた塾の先生にありがとうと言いたい。

廣井康太くん (箕郷)

合格を目指して、ひたすら復習に打ち込んだ。入学後も現状維持を目標にして、中間ぐらいの成績を維持したい。

丸山颯吾くん (大類)

努力が報われたと思うので、ただただうれしく感じる。理科系の科目が得意なので、SSH活動に積極的に参加していきたい。

林大智くん (沼田)

発表前はとも不安だったが、受かったことが分かって安心している。中学3年間を吹奏楽部として必死に頑張ってきたので、高高でも吹奏楽を続けて活躍したい。

中島佳直くん (長野郷) 合格に向けて、友人たちと切磋琢磨してきた甲斐があった。まだ部活動は決めていないが、勉強と共に頑張りたい。

恩田溪太郎くん (玉村南) とにかくうれしい。受験勉強中、大量の過去問を解いた。結果に結びついたと思う。翠巒祭や定期戦などの行事に積極的に参加したい。

宮澤尚哉くん (大類) とてもうれしい。中学では実現できなかったが、高高の目標の一つである文武両道を達成したい。

(鈴木)

尾形光司くん (大類)

努力が報われたと思うので、ただただうれしく感じる。理科系の科目が得意なので、SSH活動に積極的に参加していきたい。

丸山颯吾くん (大類)

努力が報われたと思うので、ただただうれしく感じる。理科系の科目が得意なので、SSH活動に積極的に参加していきたい。

丸山颯吾くん (大類)

努力が報われたと思うので、ただただうれしく感じる。理科系の科目が得意なので、SSH活動に積極的に参加していきたい。

高高生活のすゝめ

首席に聞く！

高高での新たな生活が始まり、不安を抱いている新入生が多いのではないだろうか。そこで、勉強への意識や高高での生活について、駿台全国模試で1位になった経験がある



勉強に励む砂盃くん

この季節になると、多くの人々を悩ませる病気が、猛威を振るう。その病名は、「花粉症」である。目のかゆみ、肌荒れ、鼻水、頭痛、喉の痛みなどの症状に頭を悩ませている人も多いのではないだろうか。花粉症は、人体の免疫が、花粉を有害物質と間違えることで発生するアレルギー疾患である。最初に、十九世紀初頭に英国で発見された。工場から出る光化学スモッグといった化学物質が主な原因だという。日本では、戦後の高度経済成長期に子供を中心に流行し始めた。花粉症は、約二百年間研究を続けても根本的

る新2年生の砂盃諒くんに話を聞いた。砂盃くんは、英語部に所属しているほか、生徒会、翠巒祭実行委員としても活動している。

―勉強で意識していることは。授業でも課題でも、今の自分に何が足りないのか、何を身につけたいのかを考えて取り組むよう常に意識している。具体的には、英語なら文法、数学なら公式といった、それぞれの学問の大事について、なぜそうなるのかを理解するということだ。

―定期テストや課題の取り組み方について。定期テストでは、各教科に優先順位をつけて学習に取り

組んでいる。優先度の高いものは、その分時間をかけて勉強するようにしている。また、高生は忙しいので、課題に追われるようなことがあるかもしれないが、課題を提出すること自体に意味はない。シラバスにも書いてある通り、内容をしっかり身につけることで力がつく。限られた時間の中で、何を身につけていくかということが重要だ。

―高高的の魅力は。いろいろな価値観を持った人と出会えることが高高的の魅力だ。勉強だけでなく、様々なことにチャレンジできて、それを認めてくれる仲間がいることが素晴らしいと思う。

―新入生に向けて。入学おめでとう。まずは、周りにいる友人や先生を大切に。そして、努力しているライバルたちを見習って、前向きに頑張ってほしい。(都木)

交通安全条例改正

高高、モデル校に

群馬県の交通安全条例が改正され、令和3年4月1日に施行された。条例改正では、県民の自転車利用時におけるヘルメット着用の努力義務化が決まった。この改正に伴って高高を含む2つの県立高校がモデル校に選ばれ、ヘルメットが配布されることになった。そこで、元本校生徒部の渡部健一郎先生にお話を伺った。



ヘルメットを被る生徒

―導入の経緯について。この条例改正には様々なきっかけがあるが、その一つとしてあげられるのは、2018年に県内で発生した、高校生の登校時における死亡事故である。他にも近年、県内では自転車事故が多発している。ヘルメットを着用していれば生き延びられた事例もあり、ヘルメットの重要性が認識され

―着用ルールについて。条例によって自転車利用時

のヘルメット着用が義務化されるが、現段階で本校は、学校に乗り入れる自転車に乗る際の着用をお願いする。しかし、着用自体が目的ではなく、あくまでも身を守ることが目的なので、その他の場面でも着用してほしい。

―花粉症がコロナへの感染を促すことにつながる。花粉症は、医学において、コロナと深く関係している。また、感染症と花粉症には、「鼻水、せき、頭痛、だるさ」といった共通の症状がある。そのため、花粉症の人々が、コロナだと間違えられて、差別や誹謗中傷の対象になってしまう恐れもある。花粉症は、対人関係においても、コロナと深く関係している。

論説

花粉症とコロナの関係

染症(以下、コロナ)の流行に伴い、花粉症は私たちにとってこれまで以上の脅威となりつつある。コロナと花粉症は、重要な事柄で関係している。

―私達の体の気道内の細胞には、抗ウイルス反応を伝達するタンパク質がある。普段は、このタンパク質が、ウイルスが体内に侵入した際に、様々な器官へ反応を伝達するという役割を担っている。しかし、花粉が気道の中に入り込むと、このタンパク質の働きが妨げられてしまう。すると、コロナをはじめとする呼吸器系ウイルスが、症状を起こしやすくなる。すなわ

―このように、コロナの感染拡大に伴い、花粉症が例年以上に、私

高高のソウルフード 高スペ



高高スペシャル

―高橋の近くにある「カフェ・ド・ブランタン」(以下、ブランタン)には、高生がよくなく愛する「高スペ」というメニューがある。これは、かなり辛いスープパゲッティであり、行事前や新入生歓迎の際などによく食べられている。入学した1年生も通過儀礼として食すことになるだろう。そこで、ブランタンの高橋代志江さんに話を聞いた。

―高スペには、一味や七味、豆板醤、コショウ、唐辛子が辛味として入っているとのことだ。高生の様子について聞くと、「辛さが平気で完全する生徒もいれば、食べられない生徒もいる。しかし、みんな美味しそうに食べているのでうれしい」と話した。

―最後に高橋さんは1年生へメッセージを送った。「ブランタンで待っています。友達と高スペを食べに来てください。そして、楽しい高校生活を送ってください。」(茂木)